

# 大津市立比良保育園

日時：2017年10月10日（火）13:30-18:30

2017年10月20日（木）9:30-16:00

場所：大津市南比良 585-1

西には高い比良の山々、東には大きな琵琶湖、周囲には田んぼと自然がすぐそばにある比良保育園。山へ田んぼへ琵琶湖へ出かけられる、県内でも少ない園です。今回は夏が過ぎ、透き通る水の琵琶湖岸でプログラムを実施しました。

（対象：4歳児27名）

1日目は講座、下見とプログラムづくり、2日目は作成したプログラムの実践とふりかえりです。講座の一部を紹介します。 講師 島川武治（しまっち）さん

## 立ち止まって保育を見直そう

普段忙しくて、自分の保育を振り返ることが少ない保育現場。この研修では、プログラムを体験したり、自らつくる経験を通して、保育者が元気になり、普段の保育を振り返り、次に活かしてもらうことも目的にしています。

琵琶湖では、膝まで水に浸かり、石を拾って比べたり、浜辺で砂山を作ってトンネルを掘ったり、湖水を貯めたり、湖岸の自然を体で存分に体験しました。



今日の水温は冷たい？温かい？「気持ちいいー」「いや、冷たいー」  
水中からお気に入りの石を拾ってみよう。  
同じような石はあるかな？見つけてみよう！  
「石って同じものはないだ！」

子どもの心に戻って、砂山作り。トンネルできるかな？「石が多いとすぐに崩れるよ」「あー、手と手がつながった！」



## まつぼっくり玉入れ

琵琶湖岸に行くと、たくさんの松ぼっくりが落ちていました。松の木に、フープと袋で作った玉入れを作って、「まつぼっくり玉入れ」を行いました。2回目の玉入れでは、拾った松ぼっくりを一度琵琶湖で水に浸けて、濡れた松ぼっくりを投げ入れました。一つひとつ違う松ぼっくり、地面のデコボコ、琵琶湖の水、それぞれの感触をじっくり楽しみながら遊べるプログラムとなりました。

松ぼっくりを1つだけひろってみてね！拾ったのはどんなかな？



グループで拾った松ぼっくりを紹介。「チクチクしているよ。」「曲がっているよ」「小さいのもあるよ」

よーいドン！で、松ぼっくりを袋へ入れよう。  
「入った！」「木に当たった」「入らへん！」「やったー」

2回目の挑戦は、松ぼっくりを琵琶湖で水に濡らしてから、袋に投げ入れるよ。水に濡らすとさっきと違うかな？どんな感じかな？



## 見つけて、あつめて、つくってみよう！

琵琶湖の浜には、いろんな自然物が落ちていることに気づいた子どもたち。松ぼっくりの他、鳥の羽や大きな枝、クルミ、貝殻など面白いものを拾えました。

グループで抽選で、浜辺の石、松ぼっくり、松葉、ドングリのチームに分かれ、自然物と砂を使って、生き物のお城を作りました。子どもたちと相談して、バッタのお城、カメのお城、ドジョウのお城などが出来上がりました。

作ったお城はそのままに、後日子どもたちと出かけ、どうなっているのかを確かめるのも楽しみです。

ハテナボックスを引くと、松葉が！このグループは松葉を集めよう！



石と砂で何のお城かな？  
「シカとバッタのお城。  
結婚するねん」



松葉と砂で何のお城？「ド  
ジョウのお城。琵琶湖から  
入れる道があるねん。」



プログラムを終えて  
「琵琶湖さん、ありがとう」  
「また来るね」

### プログラムを終えてのふりかえりから

- 子どもの発信でプログラムが進んだ。保育者が提供するばかりでなく、子どもの力を信じて自然と関わって保育をしたい。
- 多くの園の保育者の言葉掛けなどを聞くことが出来た。普段なかなかできない経験なので、生かしていきたい。
- 保育者として1年目であり、全てが初めてである。今回、自然と関わるのが子どもにとって大事であることに気づいた。
- これまで何度も琵琶湖へ足を運んでいたが、まだまだ未熟であると感じた。
- 大人の感覚であると、外へ出ない天候でも、子どもの目線で考えると、もっと楽しい保育ができると感じた。目で見て肌で感じて、保育をしていきたい。
- 冬、春、夏の季節の自然物でもっと、いろいろ遊びたい。固い頭を柔らかくして、遊んでいきたい。